

弓削寺址 東弓削八尾本の間ふあり 天平神護元年十月

長瀬川 故大和川の田圃の用水とん又小船大坂へ通ふ一名いふへ

集に弓削河原とらふこれなり 志紀郡より流る 志紀郡の界に流れると丹田

長瀬堤 長瀬川の支流をいふ今ふ 天平寶字六年六月長瀬堤

元年 秋七月 志紀河川の堤に役を其功費三萬餘人又

成功いまだ 畢らざる 重く 害あり 河内國の堤を築く

雨三歳神大和神 廣瀬神 龍田神 小奉幣 一

同十七年二月 右中辨 橋朝臣三夏成り 又の名龍華堤

堤を築く 免其長官 又の名龍華堤 二郡

小更り 老姑等 歩り 小倦り け名

玄實僧都 址 弓削の人 之 時 大連 日 事 十三年四月 百

物部尾張 址 弓削の人 之 時 大連 日 事 十三年四月 百

諸の神をり 弓削の人 之 時 大連 日 事 十三年四月 百

の神をり 弓削の人 之 時 大連 日 事 十三年四月 百

の神をり 弓削の人 之 時 大連 日 事 十三年四月 百

八尾地藏

常光寺



八尾市

毎茶

七月廿四日ハ

地藏祭

遠近参客

六道徳化の

菩薩さん

のとなりて

菩提導た

しやんと

地蔵その

密縁と

猿田彦令

みくろ

あま

あま

あま



猿田彦の

導ち

天照大神

蓋系圖

除穢の時

導ちのふも

神佛同歸

あま



初日山常光寺 八尾西郷邑あり

本尊地藏尊 小野堂の像 長六尺

舍利堂 本堂の左ふあり 白河院の帝阿弥陀堂 あり

施魔堂 舍利堂の左ふあり 聖日佛の鎮字 金毘羅権現弘

鐘堂 表門初日山 本堂常光寺 俱ふ

支當寺天平年中僧正行基の岡基ふく一千有餘年の靈

刹之厩后小野堂地藏菩薩を刻くふ安く本寺とん

寛治二年 白河法皇慈野新幸の時うに車駕とめづられ

佛舍利を寄附し終ふ其より年承應く諸堂荒蕪

乃れに至徳二年藤原又五郎を交盛純とて者伽藍悉再興

莊嚴矣藤原乃日三年小地藏を本堂ふ安く尚ふ再

營大檀那後原盛純中虹梁に彫く頗る奮觀ふ復る其後

康應三年將軍足利義滿公指くふ自書の額を賜ひ新

願所小令せしや慶長元年の頃八尾に戰場ありて伽藍

も多し軍馬の蹄小懼く殿堂の丹青室一々元々光昧

ゆれども地蔵菩薩の靈驗いひても今もいぢくぞ見ふは

戦死碑 義満寺方丈の庭ふあり 傳云元和元年五月五日藤原家諸士

勢伊死事碑

元和元年乙卯伐阪我高山公拜正先鋒五

月五日軍道明寺越六日昧爽木村重成長曾

命部盛親増田宗盛等率兵三萬直向沙旌旗

我部盛親増田宗盛等率兵三萬直向沙旌旗

登野公急出馳驟而大隊並進左拒右拒戰八

尾振帥仁右衛門及氏勝親氏陣亡右拒戰西

萱振帥新七郎及玄蕃陣亡隊騎家從戰没各

早戰若江男龜死收銃卒射背敵不進磯野

澤田但大島作等狹擊敗之渡邊勘繼進磯野

平獲宗盛尾盛親到平野之米女用戈于江彦

根師遂克重成越七日與毛利勝永軍戰内藏

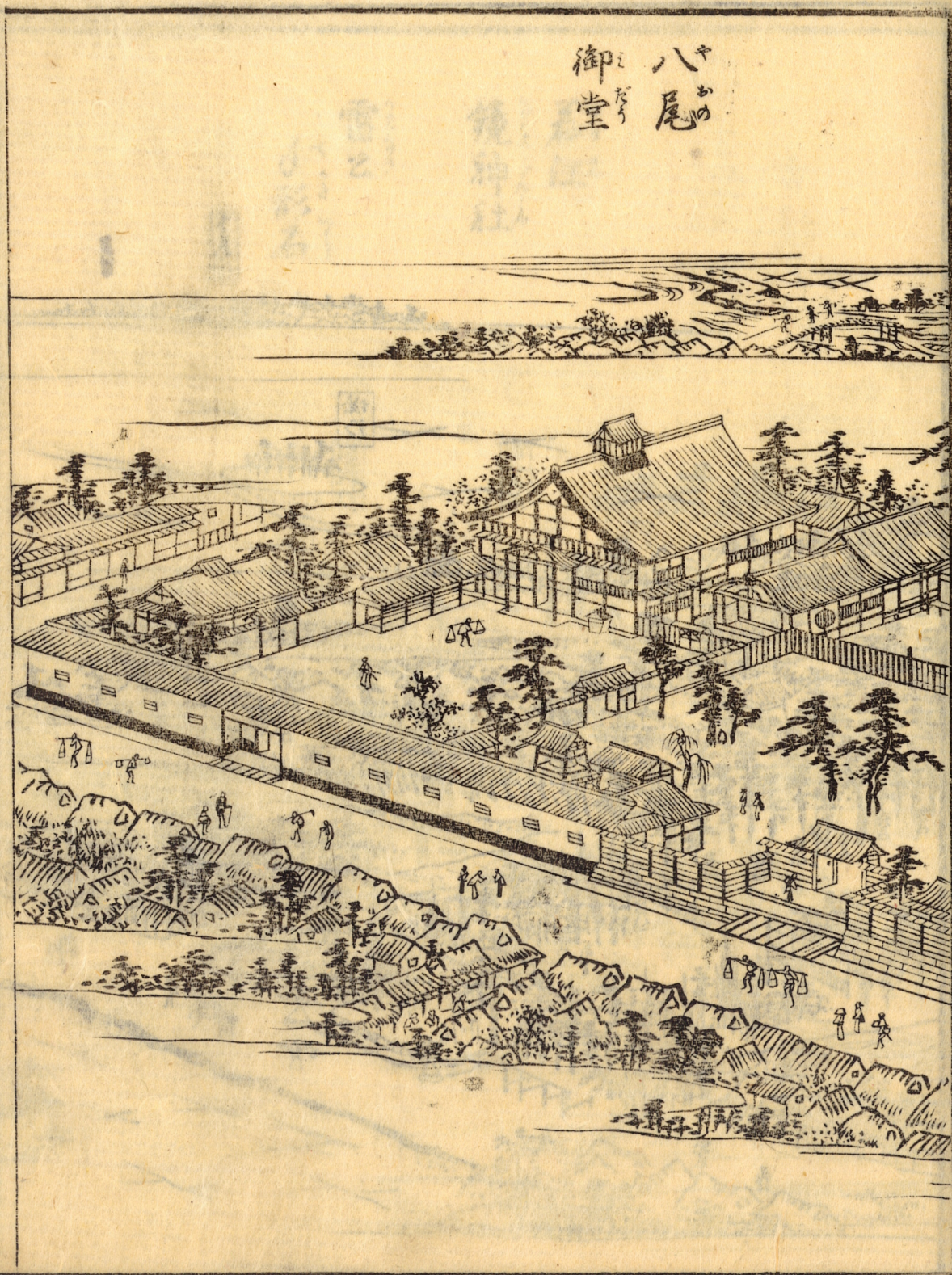
及安並等陣亡佐伯權及阪井與落合半岡本

彌中徑傳最勉晩門黒門連日所獲首級八百

七十一云役也二帥献言曰寺祀忠魂前年戰

與焉是役也二帥献言曰寺祀忠魂前年戰

八尾
御堂



八尾天満宮
寛永年中
行桐東市正
造立せられ
明和四年
高辻殿神宮
所寄附
はしる

河四ノ三十九

